２０１６年（平成２８年）３月２０日　日曜日

東奥日報新聞　１３面　掲載

光星「しっかり調整」

あす、開星（島根）と初戦

両主将とも臨戦態勢

○…開会式リハーサルの入場行進は雨天のため、プラカード担当と主将のみが屋根付きのバックネット裏を行進した。青森山田の内山主将と八学光星の奥村主将は少し残念がったものの、内山は「開幕が迫ってきていると感じた。自分たちの最高のプレーをすれば、結果が付いてくると思っている」。奥村は「いよいよ開幕だと気持ちが高ぶっている。試合までしっかり調整したい」と話し、臨戦態勢に入った様子だった。

巨人・坂本が贈り物

○…八学光星ＯＢで巨人・内野手の坂本が、センバツでの後輩たちの活躍を願い、バッティングマシンをプレゼント。選手たちは先輩に結果で恩返ししようと、快音を響かせていた。

19日の練習でマシンを初使用し、各打者は140㌔の直球を右へ左へと打ち分けていた。坂本は2年前のセンバツでも、全部員にチームジャージーを贈るなどナインを激励している。

中軸を担う益田は坂本と同じ伊丹シニア出身で「マシンを練習で最大限生かし、東北勢初の全国制覇で恩返ししたい」と笑顔。仲井監督は「大きなプレゼントをいただいた」と感謝していた。

引き締まった表情で開会式のリハーサルに臨む八学光星・奥村主将＝19日午前、甲子園球場

坂本（巨人）から寄贈されたバッティングマシン。益田は「全国制覇で恩返しを」と意気込む＝19日午後、兵庫県西宮市・津門中央公園野球場

センバツきょう開幕

県勢2校闘志

第88回選抜高校野球大会は20日、兵庫県西宮市の甲子園球場で午前9時から開会式を行い、出場32校による12日間（準々決勝翌日の休養日を含む）の熱戦の火ぶたを切る。19日は同球場で開会式のリハーサルを実施。降雨でグラウンドを使用できず、屋根のあるバックネット裏のスタンドで簡略化して行った。リハーサルの入場行進では、本番と同じように、入場行進曲の西野カナの「もしも運命の人がいるのなら」に合わせ、前回大会で優勝した敦賀気比（福井）の林中勇輝主将らを先頭に、同準優勝の東海大四（北海道）の桑裕太主将が続いた。出場校は札幌第一（北海道）から鹿児島実（鹿児島）まで、北から南の順に行進した。

札幌第一に続き、八学光星のプラカード担当の山田鈴生（りんせい）生徒会長、奥村幸太主将が登場。続いて、青森山田のプラカード担当で硬式野球部員の前田彪河（ひょうが）、内山昂思主将が力強く歩を進めた。この後、選手たちは室内練習場に移り、小豆島（香川）の樋本尚也主将が本番さながらに選手宣誓した。リハーサル後、八学光星は市内の津門中央公園野球場で約2時間、打撃練習に汗を流した。投手までの距離が約13㍍の近距離打撃では、各打者が直球、変化球を的確に捉えて鋭い打球を放ち、好調ぶりをうかがわせた。青森山田は当初練習を予定していたグラウンドが雨のため使えず、休養日とした。雨天順延がなければ、八学光星は21日、青森山田は25日に初戦に臨む。

（兼平昌寛、本田海輝）

甲子園だより　光星

小池智也外野手（2年）

堂々とプレーしたい

「夢の舞台が現実になった。堂々とプレーしたい」。新2年生で唯一ベンチ入りを果たし、初戦を心待ちにしている。

「自分で言うのもなんですけれど、面白さが売り」と笑うムードメーカー。ベンチを盛り上げる一方、打球反応の早さを武器にセンターを務め、「守備でリズムをつくって打撃につなげたい」と力を込める。

練習試合では毎試合安打を放ち絶好調。「何も考えず、フルスイングでいきたい」と意気込む。

（大阪府・南高安中出身、180㌢、72㌔、右投げ右打ち）

東奥日報社提供

この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです